

長沼の清水の数々

長沼周辺には、物語りにゆかりの清水が数々ある。

沼の御前といわれる清水——法燈国師や一角和尚にまつわる清水として有名。藤沼神社もはじめはこの地に祀られてあったと記録に残っている。碑があるが、清水の出つぽに倒れなれば埋まっており、いかなる碑か定かでない。

またたび清水——諏訪の入口にあり、殿様のお菜園として珍重されたという。近くに諏訪神社も祀られてあったという。

弥吾の清水——弥吾坂道の下にある。桜の大木があったため、桜の清水ともいわれたという。この桜の開花が苗代の目安になったといわれる。病床にあつて、自ら余命の幾何もなきを悟った者がいまわの際に一口のみたいといったという。これを家族がき、心を痛めたという。

なお天神の清水を桜の清水といったという一説もある。こゝにも桜の大木があったとか。

おまつ清水——家老内の谷間の奥にあり、白川屋の駒吉の愛妻が、この清水を用いたのでその名がある。

地藏清水——地藏岩の下の川岸の岩門より湧きでる清水。

これらの清水の多くは灌漑の便に供せられ、また、暑い夏には人々の喉をうるおし、親しまれている。